

令和5年度 学校だより 7月号 6月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

農園の出来事と6年生の修学旅行

学校長 前島 潤

農園では、各学級の夏野菜づくりが進められ、少しずつ収穫も始まりました。もうすぐミニ収穫祭。とれたて野菜が給食のメニューに加わります。山元小名物「野菜天井」。みんな（職員も）楽しみにその時を待っています。まさに地産地消です。

ある日、農園帰りの子どもたちから報告がありました。

「みかんの木にミツバチの巣がある。危ないと思うんだけど・・・。」

子どもたちの話から巣の撤去が必要と思
い、みかんの木を見に農園へ行きました。
すると、ドッジボールほどの黒っぽい塊
が見えます。周りにはミツバチが飛んで
います。でも、近付いてよく見ると巣で
はありません。ものすごい数のミツバチ
がみかんの木に群れて止まっています。



「分蜂」です。ミツバチは新しい女王が誕生すると、今まで巣の女王だったハチは巣を手放し、引っ越しをします。その引っ越しに、巣にいた半分ほどのハチが付いていきます。新しく巣をつくる場所を見つける途中で女王が休むと、女王を守るように、付いてきたハチが群れて止まります。子どもたちが見つけてきたのは、休んでいるミツバチの群れだったのです。

自然環境が豊かな農園では、様々な生き物の営みと出会います。教科書に出ていないことも、子どもたちは農園で発見し、学んでいます。

6年生が6月20（火）から22日（木）まで、群馬県の片品村へ2泊3日の修学旅行に行ってきました。宿泊を伴う体験的な学習も、やっと、コロナ以前の形に戻りました。

片品村は尾瀬に近く、自然豊かな地域です。雪解け水が流れる沢や川はどこまでも美しく、武尊山をはじめとする村を囲む山々は濃い緑に覆われています。水道には日本の名水100選でもある湧水が引かれており、人々の喉を潤しています。

子どもたちは、「沢登り」や河原での「すいとん作り」を通して豊かな自然に親しみ、田畑の豊作や家内安全を祈る伝統行事「とうかんや」や、地域の踊りである「丸沼音頭」、また、「草木染」の体験を通して片品村の伝統や文化を学びました。



「とうかんや」の様子

片品村の素晴らしさは、自然、伝統・文化だけではありません。私が最も感銘を受けたのは、宿の女将さんや体験のインストラクターを務めてくださった村の方々のあたたかな心でした。

子どもたちを見守る優しい眼差し。子どもたちのよさを価値づけてくださる姿。「私も同じクラスと一緒に生活したい。そう思うほど素晴らしい学年です。」と、宿の女将さんは、子どもたちに話してくださいました。

子どもたちの振り返りを一部紹介します。

- ・女将さんがとっても優しく、気持ちが明るくなりました。女将さんにありがとうの言葉を伝えたとき、女将さんが泣いていて、その時ぼくも泣きそうになりました。
- ・私にとって修学旅行は、女将さんや片品の人々にとてもあたたかさを感じられるものでした。
- ・女将さんの優しさがあったから、修学旅行がより楽しくなったと思います。今回、片品村で女将さんに出会えて本当によかったです。
- ・修学旅行が楽しかったのは、周りの方々にたくさん支えてもらったからだと気付きました。人の気づかいやあたたかさで、楽しく、仲良くできるのだと思います。

子どもたちが人と出会い、心を寄せてふれ合い、人のあたたかさを感じる修学旅行となったことに大きな喜びを感じています。